日高 輝之 学位請求論文

# 審查要旨

奈良県立医科大学

# 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	庄	雅之
論文審査担当者	委員	教授	國安	弘基
	委員(指導教員)	教授	吉川	公彦

#### 主論文

Efficacy of combined bland embolization and chemoembolization for huge (≥10 cm) hepatocellular carcinoma

10cm 以上の巨大肝細胞癌に対する、ゼラチンスポンジによる肝動脈塞栓術(bland TAE) と、Lipiodol と抗癌剤による肝動脈化学塞栓術(TACE)の併用法の治療効果

Teruyuki Hidaka, Hiroshi Anai, Hiroshi Sakaguchi, Satoru Sueyoshi, Toshihiro Tanaka, Kiyosei Yamamoto, Kengo Morimoto, Hideyuki Nishiofuku, Shinsaku Maeda, Takeshi Nagata, Kimihiko Kichikawa

Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies. Published online: 07 Feb 2020

## 論文審査の要旨

10cm 以上の巨大肝細胞癌に対して Lipiodol と抗癌剤を用いた肝動脈化学塞栓術(Lip-TACE)では Lipiodol が 10ml 以上必要となり、腫瘍壊死による塞栓後症候群や肺塞栓などの重篤な合併症を起こす可能性がある。巨大肝細胞癌に対する Lip-TACE の副作用の低減と治療効果の向上を目的に、まずゼラチンスポンジ(GS)のみを用いた肝動脈塞栓術(bland GS TAE)を施行することで腫瘍の体積を減らし、その後に残存腫瘍へ Lip-TACE を追加する併用療法を施行。今回この併用療法の奏効率、生存期間、有害事象、生存期間に及ぼす因子を解析された。

併用療法 3 か月後の治療効果判定は CR が 38.1%、PR が 57.1%、SD が 4.8%。生存期間は中央値が 2.7年、生存率は 1 年 76.2%、2 年 66.7%、3 年 42.9%、5 年 25.0%であり、過去に報告された肝動脈化学塞栓術より良好な成績であった。生存期間に及ぼす有意な因子は BCLC staging、Child-Pugh 分類であった。重症な有害事象は 2 例あり、急性胆嚢炎 1 例にドレナージ、腫瘍破裂 1 例に再塞栓術で対処された。以上から巨大肝細胞癌に対し、bland GS TAE と Lip-TACE を併用した本治療法は副作用の低減と予後向上が期待できると考えられた。

公聴会では、巨大肝細胞癌の頻度、GSTAE と LipTACE の間隔,集学的治療の展望,合併症対策,本治療法の適応等に関しての質問があり、いずれも的確な考察のもとに適切に回答された。

以上より、本研究は博士(医学)の学位に値すると評価できる。

### 参考論文

- Long-term outcome of transcatheter subsegmental and segmental arterial chemoemobolization using lipiodol for hepatocellular carcinoma
  Satoshi Takaki, Hiroshi Sakaguchi, Hiroshi Anai, Toshihiro Tanaka, Kiyosei Yamamoto, Kengo Morimoto, Hideyuki Nishiofuku, Masayoshi Inoue, Satoru Sueyoshi, Takeshi, Nagata, Teruyuki Hidaka, Hideo Uchida, Kimihiko Kichikawa Cardiovascular and Interventional Radiology 35:544-554, 2012
- 良性腎疾患に対する腎動脈塞栓術による腎機能廃絶術 日高輝之、吉岡哲也、打田日出夫、吉矢和彦、田中健寛、廣橋伸治、松尾 尚樹、西峯 潔、大石 元、平尾佳彦、岡島英五郎 日本医学放射線学会誌 54: 1107-1115;1994

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに画像診断・低侵襲治療学の進 歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年6月9日

学位審査委員長

消化器機能制御医学

教授 庄 雅之

学位審査委員

分子腫瘍病理学

教授 國安 弘基

学位審查委員(指導教員)

画像診断 · 低侵襲治療学

教授 吉川 公彦